

館報



9月号

やまがた

No. 833

令和7年
(2025年)



物流を支える縁の下の力持ち

栗津原 ^{たけし} 丈さん (下大池)

長野日野自動車㈱に勤務する栗津原丈さん。

趣味である自転車で毎日30分ほどかけて通勤しています。

元々車や自転車に興味があったことが高じ、整備士の道に進まれたそう。

「社内の先進技術を学べるところが楽しい。故障した車が物流の流れを止めず動いた時や、ドライバーさんから感謝された時にやりがいを感じます」と話してくれました。

現在、検査員資格取得に向けて頑張っているそうです。

(8月31日 工場にて)

働く姿

告知板

公民館講座のお知らせ

10月も魅力的な公民館講座がいっぱい！
気軽にご参加ください。

募集中の講座

ヨガ教室 in 清水寺

〈内容〉静寂な空気とヨガを体験します。
〈日時〉10月4日(土)10:00～11:00頃
〈場所〉清水寺あららぎの庄
※トレセンからの送迎も可能です。
〈申込み〉必要
〈講師〉ヨガインストラクター小松早苗先生
〈持ち物〉ヨガマット、タオル、水分等

鉢盛中学校

元気いっぱい講座

高齢者向け

〈内容〉中学生がオリジナルの体操を考えました。一緒に体を動かして、中学生から元気をもらいましょう！
〈日時〉10月10日(金)15:00～16:00頃
〈場所〉鉢盛中学校 体育館
※トレセンから送迎バスがあります。
〈申込み〉必要
〈持ち物〉運動靴、タオル、飲み物等

各講座の詳細は
ホームページを
ご覧ください。



【お問い合わせ・お申し込み】
山形村教育委員会 ☎0263-98-3155

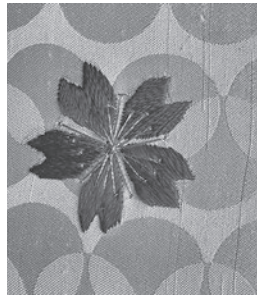


8月30日(土)、9月13日(土)の2日間、文化交流施設あららぎの庄にて、日本刺繍講座が行われました。平野珠恵さん(清水高原)を講師に迎え、刺繍に用いる絹糸の縫り方や針の刺し方など基礎を教わりながら、桜など花の模様を刺繍

日本刺繍講座

したアクセサリー作りに挑戦しました。

はじめて日本刺繍に触れる参加者がほとんどでしたが、平野さんは「ゆっくりと感覚をつかみながら、模様ができてくる過程を楽しんでもらえたら」と語りかけ、一人一人に手ほどきをしていました。初回は、慣れない作業に戸惑っていた参加者も2回目からはコツをつかみ談笑をしながら和やかな雰囲気でした。



完成した桜

中大池地区防災本部長の百瀬昇さんは「自分の身を自分で守れるよう、日ごろから、家族で災害時の行動を話し合っておく



人員確認(中大池)

総合防災訓練

8月31日(日)朝9時より、村内一斉で総合防災訓練が行われました。住民の安否確認の後、消火器体験や放水訓練、アルファ米の炊き出しやソーラーパネルの展開など、各地区では様々な取り組みが実施されました。

ことが大
事です」と
話してい
ました。

山形村消防団 秋季総合訓練

8月31日(日)、なろう原公園で消防団の秋季総合訓練が行われ、団員108名が参加しました。公園の東端にある消火栓から霊園の西に設置した火点まで、最長450mをホースとポンプでつなぎ、消火訓練を行いました。山林火災時に使用する背負い式の水袋(18L)「ジェットシューター」の体験練習も行われました。団員らは真剣な表情でそれぞれの任務を遂行していました。



放水の交代を教わる



カレーの炊き出し(小坂)

山すそ

夏は暑い。夏が暑いのはもちろんだが、今年の夏は特に暑い。そんな言葉も実はここ数年毎年言っている気がする▼「地球温暖化」から「地球沸騰化」という言葉が登場した。国連のグテーレス事務

総長が2023年7月に観測史上最高を記録する見通しとなった世界の平均気温上昇を受けて、気候変動が非常に危機的で深刻な状態にあることを示す言葉だ▼春と秋が短い。日本の象徴である四季も本当に二季になる日がくるかもしれない。対策には温室効果ガス排出量の削減と、すでに排出されたCO₂の吸収量を増やすという両面が重要だそう▼節電・節水、マイバッグの持参、リデュース、リユース、リペア、リサイクルの推進等個人でできる対策は多岐に渡る▼毎夏、私は日本伝統文化を守るためにも、畑で採れた夏野菜を食べ、打ち水をして、エアコンはつけ体調管理しつつ早寝をする。一人がしても意味はないと思わず一人一人が意識して継続することが大事である。もちろん体調第一に考えながら、今日も私は早寝をしよう。

やまのこ保育園 マスつかみ



8月24日(日)に、やまのこ保育園でマスつかみが行われました。

マスつかみは、5歳児と4歳児クラスの夏の恒例行事。園内に用意されたビニールプールにマスが放たれると、歓声が上がリ、クラスごとに交代でプールに入ってマスをとっていました。素手でつかまえるのに最初は苦戦していましたが、全員が自分の分をとることができました。園児の山口詩織さん(5歳・小坂)は、「楽しかったよ」と感想を話してくれました。マスはその場で炭火焼きにして食べ、参加者は交流を楽しんでいました。



山形保育園 カレー会

です。

カットし子どもたちの作業は完了です。



切るのが
むずかしい!

職員室前で大きなナベを3つ使いお昼に食べるカレーを煮込みました。カレー会はルーから作るこだわりのカレーとのこと。各クラスから見学にきて美味しくなる「おまじない」をかけていました。混ぜていると風向きで美味しそうな匂いが届き、「お腹空いた!」「早く食べたい!」と待ちきれない様子でした。



何が
はいてるの?

5年生海の学習

9月3日(水)、4日(木)に5年生は海の学習で静岡県清水市に行ってきました。

最初の見学地は新興津コンテナターミナルとダイヤモンド・プリンセス号です。コンテナターミナルはめつたに入れない場所です。世界に向けて送られる大量のコンテナは圧巻でした。また、清水港に来ていたダイヤモンド・プリンセス号を見ることができました。次に三保の松原に向かいました。富士山は隠れていましたが新日本三景の海岸でクラス写真を撮りました。ホテルの美味しいお昼ご飯を食べた後、楽しみにしていたマリントラック体験でした。サップ・カヌー・釣りのグループに分かれてインストラクターさんに教わりながら体験しました。体験後半は全員で釣りを行いました。ルアーで海釣りをすることなんてほとんどないのでいい機会でした。生きている餌をつけることも大騒ぎでした。釣れても釣れなくてもみんなで楽しみました。長野県にはない海という自然を満喫することができました。

2日目の朝はお茶会館見学からスタートしました。お茶摘み、お茶をみせてお茶について学びました。いいお茶の香りがいっぱいに広がりました。次は清水港クルーズです。オーシャンプリンセス号という船を貸し切りで乗りました。潮風が心地よく、みんなで船旅を楽しみました。お昼ご飯は、「大漁市場」というお店の寿司バイキングです。新鮮なお寿司をお腹いっぱいいただきました。お土産を買った後に最後の見学場所である清水港市場の冷凍庫に行きました。大きなマグロが大量にカチカチに凍っているマイナス40℃の冷凍庫に入れてもらいました。濡れているタオルは

一瞬で凍り付いて棒になっていました。漁港の冷凍技術のすごさを体感しました。

初めての宿泊学習でしたが、それぞれの係が役割を持ち、声をかけあい、協力してまとまった行動ができました。また、5年生が元気に無事に今回の宿泊学習を終えることができたのは、とても大きな経験になります。この宿泊学習で学んだことを今後の生活に生かしていきたいです。



鉢盛中学校創立60周年 記念寄付金

8月15日(金)、ホテルブエナビスタで鉢盛中学校平成元年度卒業同期会が行われ、そのなかで鉢盛中学校創立60周年記念の寄付金をつくる企画HMC48(鉢盛中48寄付金隊)が始まりました。

企画した島田洋さん(小坂)は「生徒と学校側の意見を集めて、欲しいものリストを作成した。中学校で必要な備品の購入に使用してほしい。今後活動を地域にも広げていきたい」と話してくれました。



同期会の集合写真

戦後80年企画「戦争の記憶・戦後の記憶」



倉谷 徳男さん
(上竹田)

昭和5 (1930) 年2月生まれ、現在95歳。娘さん夫婦と3人暮らし、午前中は農作業に従事する。戦後の青年会活動に勤しみ、山形農協理事を務めた。波田の安藤苗圃に勤務後、1962年頃から、玉ねぎ、キュウリ・トマトのF1(エフワン)の種もの、実生の山林苗木生産にも長年携わってきた。

7月号に続き、戦後80周年企画として戦争を体験した村民の方に当時のお話をうかがいました。今号では、倉谷徳男さんに協力をいただき、戦時下での暮らしや山形村の様子について記憶を辿っていただきました。

聞き書き、文書編集…館報編集部 清原

皇国少年の時代

1937 (昭和12) 年7月、小学校3年で盧溝橋事件・対中国戦争が始まると、日本は強い！1941 (昭和16) 年12月、海軍がハワイ真珠湾を攻撃後、日本は連戦連勝！その度に嬉しくて、負けるなんて思わなかった。

陸軍航空隊が山形村上空を飛んだことがある。皆で小学校の校庭にひと文字を作り迎えた。

村出身で1歳上の海軍飛行

海軍志願兵検査 「ビンタの思い出！」

1943 (昭和18) 年1月、国民学校の高等科1年数え年14歳の時、松本の縄手通り近くの公会堂で検査を受けた。山形村の14、15歳の受験者は、みな海軍志望で、受験が決ま

ると検査までの半年間、左胸に海軍の軍旗を縫い付けてもらって、それが誇らしくて、嬉しくて。ところが、俺は身体検査の会場でほつたを張り付けられた。検査する時、四つん這いになる時があり、前に並んでいた者のその格好が可笑しくて、思わず声を出して笑ってしまった。すると「(大日本) 帝国軍人にならんとする者が何だっ！」とね。何があっても笑える14歳の子どものものに。検査後、陸軍大佐と個人面接があり、「合格し召集されても、大丈夫なように身体を鍛えておけ、今年不合格でも来年も受験するように」と言われ、結果は合格だった。

軍事教練

小学生には無かったが、青年学校では、なろう原(現在マレットゴルフ場あたり)で教練をし、リング作りもした。体育館で剣道もして、軍記念日(陸軍3・10、海軍5・27)の演習では空鉄砲を撃つた。

大変だった暮らしと 悲しいでき事

大人は米を、軍馬向けの草・茅は小学校高学年が請け負った。

軍馬の草刈りに行って、上竹田原村の1歳上の二人が亡くなったことがあった。夏の

戦争中の食糧事情

盛りに草刈りして、暑かったもんだから、弁天さま(弁天池)で水浴びしているうちに溺れて…。

白米をお代わりして、好きだけ食べてた。困って買い出しに来たのは、松本の人達で、衣類と米を交換していた。食べられる物ならば何でもよかったようで、さつま芋の茎なんかも持つて行く。どう調理して食べるのか不思議だった。

戦時下の農業

繭玉は、戦前・戦後の大切な収入源だったから、お蚕を飼った。繭は、村井に持つて行った。集会所に木炭トラックが来て、繭玉をボテに入れて家から運んだ。木炭自動車は、ナラの木炭で火を起こして、うまく火が燃えないと止まってしまいう代物だった。水稻は供出するから陸稲も作って足しにしたが、肥料すると倒れてしまうし、雨が降らないと穂が出ずに全滅とくる。

今年(1994年)は第二次世界大戦終戦(1945年)から80目にあたります。館報やまがたでも特集を組むこととしました。戦争当時すでに物心がついていた方は、現在85歳を上回るでしょう。触れたくない、触れられたくない記憶かもしれません。取材にご協力いただいた方がたに、心から感謝申し上げます。

それに比べ、蕎麦は強いから、七夕過ぎてお盆までに蒔いていた。

終戦・兵隊さんの記憶

幾日もいなかったが、上竹田旧公会堂（現見性寺第2駐車場）に宿泊中の陸軍の兵隊さんが四ツ谷の集会場に分宿して、家々がお風呂・ご飯でもてなしたことがあった。

終戦の前日には陸軍松本飛行場へ連れて行ってくれて、陸軍の重爆撃機「呑龍」に乗せてもらった。操縦席に座ると「広くてなあ」ご機嫌だった。

その翌日、1945（昭和20）年8月15日、昭和天皇の声で「終戦の詔書」（玉音）放送を聴いた。戦後になって振り返ると、戦争のおかしさを感じ始めたときだけは、山形村から満州へ満蒙開拓青少年義勇軍で行く頃からかなあ。身近な三人が行って、一人は向こうで死んだ。教育のおかげで、そうなった。だから、政治は、軍人に任せてはダメだ。（憲法に照らせば）自衛隊だって（軍隊だから）本当はダメだ。

B 29が20機編隊で上空を飛んだのを見た時、制空権を失った日本は負けると思った。

今から思うと、一般人が、兵隊にご飯炊いてやったり、

風呂を沸かして入れてやったり、小学生が軍馬の餌を供出する、そんなんじゃないやあ、戦争には負けるわなあ。

終戦後―占領下

兵隊が、小学校の校庭に穴掘って鉄砲を埋めていた。若い者は、みなブラブラして、良いことは無かった。小坂の公会堂に皆で行って、落下傘をワイワイ言いながらもらってきて、傘の絹地を分けたりした。そのうち青年会を作り、お祭りの時は、踊りを踊ったりした。俺は恥ずかしかったけれどもやったよ。竹田のお祭りでは、建部神社の舞台で上竹田・下竹田青年会が、別の演目上演して活発だった。

戦争に負けていけないんだけれど、戦争に負けて日本のは良くなくなったのではないか。「どうでもやれ！」と強制されることもなく、言論の自由・思想信条、行動の自由がある。

あの時代の教育が、すべて誤りだったかと問われれば、そうは思わない。終戦になるとおかしいと思った。特攻隊で死に行くし、そんな教育は考えなければいけない。そりゃあ、——いいさ：言論の自由があるっていうのは……、そういう時代がなあ。

取材日…令和7（2025）年9月5日

清水高原コミュニティサロンが始まりました!



爪楊枝作りなど手仕事を楽しむ

このほど清水高原に住民ボランティアで活動する『清水高原コミュニティサロン（以下…サロン）』が新しく立ち上がり、地域住民の交流の場になっています。きっかけは今年5月、サロン代表で清水寺管理人の岡上真梨さん（清水高原が「清水高原で暮らす方たちが元気で長く生活できるよう、気軽に健康や福祉について相談できる場があれば良い」と、山形村社会福祉協議会（以下、社協）に相談。同社協が運営している『いきいきサロン事業』を活用し、社協職員や山形村保健福祉課の保健師の協力を得て、サロン発足に至りました。

岡上さんは「清水高原から行政窓口へ相談に行く際には、車で片道30分程かかることや公共交通機関がないなど不便さはあるが、遠隔地でも行政や住民同士で繋がることで安心して生活できるのでは」とも話します。

今年6月、清水高原の文化交流施設あらぎの庄にて、地域住民と社協職員、保健師が顔合わせを行い、9月4日（木）に同会場にて、2回目のサロンを開催しました。この日は社協職員と保健師らが血圧測定や健康相談を行い、体操で身体をほぐした後、清水高原で採取した壇紅梅の枯れ枝をカッターで削って、爪楊枝を作る手仕事を楽しみました。参加した70代の男性は「子どもの頃、竹を削っておもちゃを作ったのを思い出す」と懐かしそうに昔を振り返り、ボランティアや参加者同士で談笑する和やかな姿が見られました。また女性参加者からは「保健師さんに直接お話ができて、良い情報ももらえたので、来て良かった」という声も聞かれました。

サロンでは今後も定期的に健康相談や手仕事をとり入れた会を開催していく予定で、参加者、ボランティアも歓迎しているそうです。

『いきいきサロン事業』は村内の各地区でも実施されており、詳しい情報は山形村社会福祉協議会（☎0263・97・2102）までご連絡ください。



自作の楊枝でお茶を楽しむ





鉢盛中学校吹奏楽部



8月24日(日)に松本市内にて、2025セイジョザワ松本フェスティバル「吹奏楽パレード」が開催されました。市内外の40団体・1700人が参加し、村民の参加者は中学校部門の鉢盛中学校と一般部門の松本消防協会ラッパ隊(93人のうち山形村は7人)が参加しました。

吹奏楽パレード

Mウイング前をスタートして松本城前までパレードを行い、練習の成果を発揮して演奏をしていて観客も楽しそうに聞いていました。



松本消防協会ラッパ隊

日用夕市

8月30日(土)、ミラ・フーデ館前にて、日用夕市が初開催されました。毎月行われている日用市を午後4時からの開催にしたものです。

様々な販売ブースのテントやキッチンカーが並び、その中央には飲食スペースが設けられました。天候にも恵まれ、多くのお客さんと賑わいました。18時からはSAXBOXの演奏もあり、訪れた人たちは素敵な時間を過ごしていました。

家族と訪れた堀井琴葉さん(小2・小坂)は「楽しいです」。



SAXBOX(サボックス)の演奏



かき氷もカレー味のチキンもおいしかったです」と話していました。

オールドスター野球

8月15日(金)、トレーニングセンターでオールドスター野球が開催されました。コロナ禍で中止になった年もありましたが40回目の開催になります。

オールドスターとは、40歳以上を参加対象とした大会です。各区を3チームずつ2つのグループに分けて、1位になったチームで決勝戦が行われました。

全ての試合で熱戦が繰り広げられましたが決勝戦は中大池と小坂になり、4対2で中大池が優勝しました。



第28回山形村民ゴルフ大会

9月3日(水)、安曇野市の豊科カントリー倶楽部で第28回山形村民ゴルフ大会が開催されました。参加者は快晴の下それぞれプレーを楽しみました。

大会終了後には、ミラ・フーデ館で閉会式が行われ、113人が参加しました。

【大会上位表彰者】

★優勝 唐沢 秀明
◎準優勝 竹野入 俊良

○ベストグロス賞(男子) 川上 正
○ベストグロス賞(女子) 川上 幸子



おめでた字・観

小穴 蒼陽 香織 小坂

おくやみ

大塚 恭子・79歳・上竹田

齋藤 勲・87歳・上竹田

原 宏見・87歳・小坂

還暦祝

今月の
声



＜節目＞を迎えて想うこと

昭和100年還暦を祝う会 会長

小林 数喜^{かずき} (上太池)

還暦を迎えた私たちは、昭和39(1964)年、40(1965)年生まれです。令和から振り返ると、初めての東京オリンピックが開かれ、それに伴い急速なインフラ整備が行われ、もはや戦後ではない、言葉が名実ともに世の人々に感じられた年ではないか、と思われまふ。

その節目にあたり、共に還暦を祝い合おうと、多くの仲間の賛同と協力を得て、第41回山形じゃんずらでスターマインの打ち上げと、祝賀会を開催することができました。祝う会一同、関係各位には篤く御礼申し上げます。

還暦の会は5月早々に立ち上げたのですが、多くの仲間は成人式以来ということもあり、どのように連絡をつけるか、が、まず課題となりました。しかしそこは現代。還暦の私たちでもSNSを使えば連絡がつくのではないかと、草の根で連絡グループを作ることから始めました。そこからはアナログに各人で直接声をかけたり、実家に向いて通知を頼んだりして、小学校の同窓生ほぼ全員に連絡をすることができました。子どもの頃、特撮ヒーローもので、腕にはめた通信機で「こちら〇〇」と言っていることが未来だった私たちが、いつの間にかその世界にいることを、改めて思う出来事でした。そして、悲しいことに、68人の仲間のうち、4人が既に逝去されていることもわかりました。あれからずいぶん遠くに

来たものだな、と時の流れを思わずにはいられませんでした。

8月14日のじゃんずらの日には、40年ぶりに多くの仲間が集い、数えきれない話の輪が咲いて、とても楽しい時間を過ごすことができました。遠方から駆けつけてくれた仲間も、もちろん多かったのですが、意外と村内に暮らしている仲間が多いこともわかり、「次はいつ？」との声があがりました。一気に50年の時が埋まり、またこれから前を向いて生きていこうと思える時間となりました。

「これでもか！」とスマイルとスイカがあがったスターマイン、私たちがらしい、と笑い合う、楽しいじゃんずらでした。これからも、私たちを、どうかよろしく願います。



みんなの人権 ①④

1945年8月6日の“A Mother's Lullaby(お母さんの子守歌)”

～絵本「かあさんのうた 大野允子」…絵本に学ぶ「人権」④



◆8月初旬の猛暑の日、村ミラ・フード館で開かれていた「原爆の絵」展を鑑賞しに出掛けました。広島の高校生たちが、被爆者の証言を丁寧に取り、被爆時の光景を克明に表現した作品とのこと。地獄絵のような光景を語る被爆体験者と、その証言を聞き取り絵に描く高校生とのつらく重い対話を想像しながら、33枚の絵の前に長時間立ち尽くしてしまいました。◆焼き尽くされた街の惨状、皮膚が焼きただれて全身膨れ上がった人で埋め尽くされた川、全身の皮膚が溶けたままさまよう証言者自身の姿などが描かれ、一枚一枚の絵が、言葉では言い尽くせない被爆の残酷さを伝えていました。◆「原爆によって崩壊した町を、真っ黒に焦げた赤ん坊を涙しながら抱え、徘徊する母親」というコメントとともに掲げられていた絵に見入りながら、かつて訪れた原爆資料館での衝撃や、これまでに出会った何冊かの本やビデオなどを思い起こしていました。先ごろ村未来塾で中3生と読み合わせた英語教材“A Mother's Lullaby”のもとになった絵本「かあさんのうた 大野允子 1977年 ポプラ社」もその一冊です。◆広島島の爆心地近くに立っていた大きなクスノキは、ピカドンで焼け落ちた地獄絵図に心を痛めていた時に、顔中ひどいやけどを負った坊やが、母親の名を呼び続けて、クスノキの下をさまよい歩く光景を目にしました。すると近くにいたお下げ髪の女学生が「はいよ、かあちゃんはこのにいるよ」と言いながら、坊やを抱きしめ、子守歌を歌い始めました。坊やは、子守歌を聴きながら息絶え、お下げ髪の女学生も、坊やを抱いたまま、クスノキに寄りかかり亡くなったのでした。◆8月6日の広島、9日の長崎と原爆投下の日が続き、15日の終戦の日。満蒙開拓団の大陸からの逃避行、死の行進や爆撃、飢えなどで亡くなった多くの戦争犠牲者。国内外の加害と被害に血塗られた「終わりなき旅」。8月は、私たち日本人にとって死者と生者とが行き交う特別な月になってしまいました。◆「退屈極まりないのが平和、単調な単調な明け暮れが平和、(それを)フレッシュに持ち続けて行くのは、戦争をやるよりずっとむずかしい」と言ったのは詩人・茨木のり子。世界も日本も身近な地域も、この平凡な毎日の営みに綻びが目立つこの頃、「過去に目を閉ざす者は、現在に対しても盲目となる」との先人の警句を胸に、昭和100年の現代史を振り返りたいと思います。

(令和7年9月 M.H. 記)

じゃんぷる後記

「じゃんぷるじえくと」が発足して今年で3年目。一昨年は手探りの土台作り、昨年は無念の雨天中止となりました。そして今年、私たちはついに晴天の下、じゃんぷるとして祭りに存分に貢献することができました。

5月から6回にわたる会議と準備期間を経て迎えた祭り当日、私たちが主に担当したのは、プレイベントのうちわイベントでした。「じゃんぷる音頭」の歌詞シールを会場内で集めてもらい、ゴールした子どもたちにはガチャガチャや紐くじ、お菓子掴み取りを用意しました。さらに、手作りの「やまっちお面」を配布し、盆踊りの「やまっち連」にはたくさんさんのミニやまっちが集まってくれました。

イベント全体を見渡すと、私たちが企画、考案したものがあらゆる機会に活かされていました。うちわやフォトスポットではたくさんの方に活用していただき、選曲した花火のBGMが夜空に響き渡りました。募金箱も初めての取り組みでしたが、寄付金に貢献できました。毎年新しい挑戦を企画し、それを形にできることが、この「じゃんぷる」の大きな魅力だと改めて感じています。

今年は特に、活動の認知度が広まっていることを実感できた年でした。NHKの「どどどー信州イチオシ」への生出演をはじめ、地方新聞にも取り上げていただき、またじゃんぷるとしてSNSでの発信も始めました。そのおかげもあって、当日はブリスに絶え間なくお客さんが来てくださったり、うちわやお面を手にした人たちの笑顔を見たり、大人の方から温かい声をかけてもらった時、自分たちの活動が地域にとってかけがえのないものになっていると実感し、胸が熱くなりました。これからも「じゃんぷら」と「じゃんぷる」が続いていくことを心から願っています。特に若い世代がもっと参加し、祭りをさらに盛り上げてくれると嬉しいです。

「じゃんぷらぷるじえくと」発起人兼副リーダー 大岩音寧



【20代館報編集部員コラム】

あの頃の風景は今？ 店の変遷に見る故郷の記憶

私が幼少期の頃、親と買い物に出かけた村内のお店が記憶に残っています。今と変わらなずそこは、食材から日用品まで、暮らしのすべてが揃う場所でした。しかし、お店が今とは異なり、昔懐かしい店が並んでいました。▼食材はアップルランドやAコープ、マックスバリュ。まだツルヤがなかった頃の話です。特に覚えていたのが、アップルランド。車型のカーポートに旗が立っていて、幼少期はよくそれに乗って「運転」していました。娯楽といえば、ジャスコ(現イオンタウン)のゲームセンターで遊び、隣のマクドナルドで昼食を買っていました。あの揚げたてのポテトの音は、懐かしい思い出とセットになっています。そして同じ敷地内にあったのは、大きな家具や日用品を揃えるメガマート。マックスバリュとメガマートは同じ敷地内で、店を区別しづらかった幼少期の私は、外観の色や店名の発音で区別していました。▼時代の流れとともに、村の商店街も大きく変わりました。故郷からかつてのお店が消えてしまったのは少し寂しいですが、その背景には企業の戦略や時代のニーズがあるのでしょう。新しいお店ができることで、村は「ベッドタウン」として便利になり、発展してきたのだと思います。幼い頃の記憶の中にある景色と、現在の風景。どちらも大切な故郷の姿として、これからも私たちの心に残り続けるのでしょうか。



アップルランド(上)とマックスバリュ(下)の外見
(Googleマップ2012年6月のストリートビューより)

当時と現在における主な店の比較

幼少期当時の店名	現在の店名・店舗
サラダ街道	
Aコープ	ツルハドラッグ
アップルランド	農家の店大地
イオンタウン(旧ジャスコ)	
マックスバリュ	ザ・ビック
メガマート	ケーヨーD2→DCM
マクドナルド・ゲームセンターなど	カーブス、ココカラー
メガネの一真堂など	ダイソー、オギノなど

from 編集部員 O

